

## 第16回中部電力原子力安全向上会議アドバイザーボード 議事要旨

1. 日 時：2022年1月31日（月）9時30分～12時00分
2. 場 所：中部電力本店内会議室
3. 出席者：＜社外委員＞

（本店ビルにて出席）小林委員、勝治委員、長崎委員

（Web会議にて出席）横山委員、服部委員

＜社内委員＞増田（博）副社長、水谷副社長、

伊藤専務、伊原専務、片山専務

（経営審査室長、総務・広報・地域共生本部部長、

経営戦略本部部長等同席）

### 4. 議事要旨

「前回のアドバイザーボードでのご意見について」、「原子力部門、経営審査室、広報部門の取り組み」、「今回の安全向上会議での指示・議論」、「2022年度の取り組み方針」について当社より説明。多岐にわたる議論がなされた。

社外委員からの主な意見は以下のとおり。

- 今後、浜岡原子力発電所の許認可申請に合格した後に、過去事例と同様の事象が発生し中部電力の安全管理体制の是非を問われることがないように、他社の知見や過去事例に対しても分析したうえで、リスクマネジメントを実施することが重要。
- リスク管理シートは良い取り組みであるが、日々の気づきがうまく反映されない恐れがあるため、日々のコミュニケーションをしっかりと行ったうえで、うまく活用してもらう工夫や従業員への浸透が必要。
- セキュリティは情報が洩れたらすべてが台無しになるため、安全管理とセキュリティは全く別のものとして、切り分けて考えることが重要。
- ヒューマンエラーについては、個人を責めず組織的に解決することが重要であり、ヒューマンエラーを減らすことも大事だが、ヒューマンエラーがあっても、それが大きな影響を起こさない、あるいは大事に至らせないことこそが重要。
- 他社の事例のような、不正入構の見逃しが続くと、ルールを順守しなくても入構できるという風潮が広がり、セキュリティ機能が破綻してしまうため、たとえ軽微な事象に対しても迅速かつ徹底的に対応していくことが重要。
- 安全に携わっているのは現場の人間であるため、OODA (Observe Orient Decide、Action) を行動に生かしていくことが、会社としてのリスクマネジメントとなる。まずは、現場作業員の一人ひとりの意識に浸透させて、行動に浸透させていく工夫が必要。
- 住民の皆さまに安心いただくため、万一原子力災害が起きた場合の対応をご説明する際は、放射線が健康と生活に及ぼす影響についても分かりやすくお伝えしていくことが必要。

- 社会への情報発信においては、媒体ごとにターゲットが異なるため、ターゲットに合わせた内容・発信方法の検討が必要。例えば、年齢の高い方についてはインターネット以外の場での接触機会を増やす工夫も必要。
- 再生可能エネルギーを紹介するホームページは、全体の整合がとれるよう、内容を整理するなど、引き続き見せ方を工夫することが必要。
- 分社化して3年を迎える中で、中部電力、中部電力パワーグリッドおよび中部電力ミライズ3社の従業員一人ひとりが、広報担当としての意識を持ち、コミュニケーションスキルを向上してもらいたい。

以 上